



年頭挨拶——みんなの党・衆議院議員 柿沢未途

守りの鎖国から

攻めの開国へ

～平成二二年の年頭にあたって～

平成二二年の新年を迎えました。政権交代が実現しましたが、日本が良くなったという実感を多くの人が持てないでいます。

アジア新興国をはじめ世界各国の経済がV字回復しています。その中で日本だけが取り残されています。東証株価は低落傾向で一万円の水準を行ったり来たり。日銀の金融緩和の効果で少し持ち直しましたが、これが長続きすると考えている専門家は誰もいません。

日本一人負けの様相。物価が継続的に下がり続けるデフレが日本経済の足を引っ張っています。しかも日銀によればデフレは向こう三年続くというのです。政府はデフレ宣言を打ち出しはしましたが、宣言あって政策なしの状況です。

今必要なのは「デフレ宣言」ではありません。「日本が変わる」という明確なメッセージを政治が力強く発信することです。

政権交代はそのためだったはずですが。しかし鳩山政権はリーダーシップの欠如による迷走ばかりが目につきます。普天間基地の移設も予算編成も鳩山総理の発言は二転三転し、方針なきまま迷走しているという印象を内外に与えるばかりです。

海外の目から見れば日本は欧米よりも断然有利なポジションにあります。これから成長センターとなるアジアにあり、中国やインドの需要を取り込むことができず。しかもこれから最も必要となる環境・省エネの分野で世界をリードしています。それに加えて一、五〇〇兆円の高額資産があり、国内資金が潤沢なことも強みです。

にもかかわらず、今の日本はまるで反市場経済の国になってしまったかのような政策ばかりを打ち出しています。資金量三〇〇兆円の国内最大の金融機関である日本郵政グループを銀行法、保険業法の

枠外に置き、再国有化を目指すかのよう。な郵政民営化見直しはその典型例です。日本がグローバル市場経済に立脚し、アジアの国々に技術やサービスを売り込む「攻めの姿勢」に転じることこそ、日本の経済成長につながる戦略です。とりわけ今まで官が行っていたセクター、すなわち、一分たりとも遅れない鉄道ダイヤや漏水率の少ない水道事業などが、積極的な海外進出が見込める新しい分野です。

守りの鎖国から攻めの開国へ。それが、政権交代以上に、「日本が変わる」というメッセージになりうると思うのです。

昨秋の臨時国会では、民主党の新人議員が研修会に明け暮れている間に、おそろく与野党で最多の三回の国会質問を経験させて頂きました。これからも国会の最前線に立ち、日本の未来に向けて、積極的な発言を行ってまいります。今年も宜しくお願い申し上げます。



かきざわみと／昭和 46 年 1 月 21 日生まれ。江東区立数矢小、麻布中・高、東京大学法学部卒。NHK 記者、都議 2 期を経て、昨年 8 月の衆院選で渡辺喜美代表率いるみんなの党東京第 15 区から立候補、比例復活当選。衆院国土交通、総務委員会委員。



2009年11月18日、国道交通委員会にて初めての質問。前原大臣と対峙。その後、11月26日、12月1日の総務委員会と、会期中3回の質問を行う。この質問の動画は衆議院のホームページでも見られます。衆議院ホームページ▶<http://www.shugiintv.go.jp>（「柿沢未途」で検索してください）

に問われる課題

一二月一四日、民主党・小沢幹事長の大訪中回とツーショット写真、そして天皇陛下と習近平氏の特例会見をめぐって、日本国内の報道が過熱する中、柿沢末途は日中議会議事委員会の一員として中国・北京を訪問しました。日米関係、日中関係がクローズアップされるいま、将来世代を担う立場として、柿沢末途が感じた真の日中友好とは――。

最高指導部序列第2位の吳邦国・全人代委員長と



国の威信をかけた五輪を終えて

一二月一四日から一六日まで、中国・北京を訪問してきました。衆議院議員となって初めての外国訪問です。

時あたかも民主党・小沢一郎幹事長の大訪中回が胡錦濤主席とひとりのひとりの記念撮影をしたとか、次の国家主席と目される習近平氏の天皇陛下との特例会見をめぐって政治利用との批判が噴出するなど、騒がしい中での出発となりました。

今回は松本剛明・衆院議運委員長率いる日中議会議事委員会超党派一人の国会議員団の一員として訪問しました。小泉政権下の平成一七年、靖国問題で首脳会談も開かれない冷え切った日中関係を懸念した河野洋平衆院議長(当時)が日中の議会交流を提唱し、以後、相互訪問が行われてきたものです。

初日は北京市内を視察。北京オリンピックのメインスタジアム「鳥の巢」を訪れました。その名の通りの独特のデザインをしたスタジアムは九一、〇〇〇人収容。

「ここはどうしても視察してほしい」と中国側から強い要請があったそうです。国の威信をかけての一大イベントの舞台です。入場料は一八〇元(二、四〇〇円)。

スタジアム内に入ると何と雪が。一九日からスキー場として開業するのだそうです。国家スタジアムも独自に収益を上げなければならず、サッカーの国際試合やコンサートにも使われているということでした。

オリンピック公園に向かって、龍のデザインをした五つの高層ビル群が。最上階のマンションはあのビル・ゲイツ氏が北京オリンピックの前後に年一億元(約一五億円)の賃料で借り切っていたそうです。この一帯は北京北辰実業という不動産企業が土地を保有しています。北京市が一部出資する政府系企業で、経営陣には高級官僚の子弟が名を連ね、そのコネで国有不動産の利権を獲得、さらに株式市場により巨万の富を得ているそうです。こうなると共産主義も社会的平等もありません。



日中友好に必要なのは儀礼的発言だけではない

市中心部は人民服に自転車の大群というかつての光景はなく、代わってクルマの渋滞が。世界金融危機で外需依存の中国経済は大打撃を受けたものの、政府による四兆元(五七兆円)の景気刺激策の効果で、このところの経済成長率は八・九%まで持ち直してきました。優遇税制措置もあり、今やスズキや日産の小型車が飛びように売られています(トヨタは少し出遅れたそうです)。北京市内の自動車保有台数は週に二万台(!)のペースで増えており、年内に四〇〇万台を突破するということでした。

一二月二六日、いよいよ全中国人民代表大会(全人代)常務委員との会議に臨みます。



した。天安門広場に面した人民大会堂。華建敏・副委員長をトップとする八人が議論の相手です。午前・午後の二部構成で、政治経済、気候変動問題などについて議論を交わしました。

中国側の発言は日中友好に配慮する最高指導部の方針がありありと反映されたものでした。華建敏・副委員長は「中日両国は紆余曲折を経て戦略的互恵関係を確立した。わが国は友愛精神に基づき両国

今、日中友好



人民大会堂にて。日本からは日中議会交流委員会 11 人、中国からは華建敏・副委員長をはじめとする 8 人による会議が行われた

の関係を重視し、中日関係に優先的地位を与えている」と、「友愛」という言葉を使って発言しました。一方で気候変動などへの対応については「中国は今も発展途上国である」とのスタンスを頑として変えませんでした。

気になったのは、日本側の発言が中国に対して非常に遠慮がちだったことです。「わが党は中国との関係を最重視します。先日も小沢一郎幹事長が一四〇人の国会議員を引き連れて胡主席と会見したばかりです」

「日中関係においては、まず先の戦争において日本が中国を侵略し、中国の人々に多大な被害と苦痛をもたらしたことへの謝罪がなくてはならない」と思いますが、どちらも間違った内容ではないと思います。しかしこのような儀礼的発言に終始

して、日本国民の代表として中国に対して適切に発言したことになるのでしょうか。日本も中国も互いに対する国民感情は良いとは言えません。世論調査によれば相手国の印象が「悪い」と答えた率は日本で七割、中国でも六割です。このような国民感情を克服するためには日中間で対立している諸問題を解



課題に目を向けることが日中間の未来をひらく

決せねばならず、それなくして両国の信頼関係を深めることはできません。

会議も午後の部に入り、小政党の新人議員である私にもようやく発言のチャンスが回ってきました。このまま帰国するわけにはいかないといい思いで、あえて厳しい指摘をさせて頂きました。

「日中議会交流委員会は両国の国民の代表者同士が議論をする場だと思えます。その前提に立ち、日本の民意を背負った立場として申し上げたい。日本国民は総じて隣国である中国のことを脅威に感じています。中国の国防費は過去二〇年余りにわたって二桁成長を続け、核保有国であるだけでなく、空母建造計画も聞かされてきます。東シナ海のガス田開発をめぐっては政治合意が交わされたにもかかわらず、その後の国際約束締結交渉は中国側の事情で中断しています。その間にも日中間線における中国の開発行為が確認されており、日本の不信感は高まっています」

人民解放軍出身の姜吉初・全人代常務委員が色をなして反論してきました。「中国の国防費増加は経済成長のスピードに見合ったもので、いかなる国の脅威にもなっていないのは明白である。脅威論を言い立てるのは勉強が足りないから

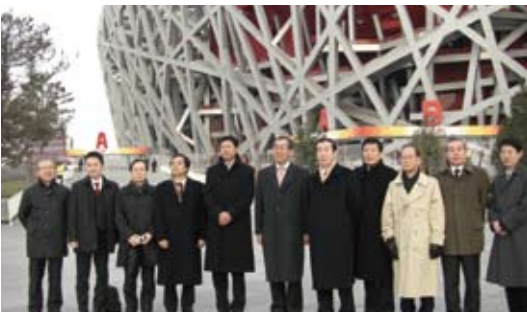


北京一の繁華街・王府井（ワンフーチン）。私も愛用のユニクロは中国では高級ブランドのひとつ

だ！」もう一度、反論しようとして手を挙げましたが、残念ながら時間切れになってしまいました。

会議終了後、呉邦国・全人代委員長と会見しました。中国最高指導部序列第二位で、胡主席に次ぐ地位にいる実力者です。

呉邦国氏に対して日本側の松本団長は「中国の発展に協力するためにも国民感情の改善が必要です。会議では中国の国防費の増加についても議論が提起されました。日本には『影に替える』という言葉があります。中国の大きな影は国際的な心配になるでしょう」



▲日中議会交流委員会のメンバーと五輪メインスタジアム「鳥の巣」前にて

▼3日後のオープンを控えて、降雪車をフル稼働させて人工雪を降らせていた



の会議での発言をそのまま使わせてもらったよ」とのことでした。中国ナンバー2への公式発言に、私が行った苦言が引用されました。言うべきことを言わずに口をつぐむのではなく、日中間の課題に目を背けず、互いに率直に語り合うことこそ、両国関係の未来を作り出すことにつながると思います。だからこそ鳩山総理の提唱する東アジア共同体の礎石となるのではないのでしょうか。



▶初の国際会議、全人代常務委員と議論を交わす

質問主意書を連発 「天下り問題」の回答は 新聞記事にも

衆参6議席のみんなの党は国会での質問の時間が少ないのが現状です。特に昨秋の臨時国会では、民主党など政権与党による数に任せた国会運営のため、鳩山総理就任後初めてとなる本会議での代表質問がみんなの党には認められませんでした。そこでみんなの党が活用しているのが文書による質問主意書です。質問主意書とは、国会法74条の規定に基づき国会会期中に議員が内閣に質問する文書であり、内閣は質問主意書に対して7日以内の返答を義務付けられています。

柿沢未途は臨時国会の1か月余りの会期中に公務員制度改革や郵政民営化見直しに関する13本もの質問主意書を提出し、国会ではちょっとした話題になっています。天下りに関する質問主意書では「府省庁の幹旋なき天下りは問題なし」という今までの民主党の主張と食い違う回答を引き出し、新聞記事にもなりました。



▶柿沢未途やみんなの党の公式ホームページで質問主意書を公開

「柿沢未途君を励ます集い」 おかげさまで 盛況のうちに終了しました

12月2日、東陽町のホテルイースト21にてみんなの党東京第15選挙区支部主催「柿沢未途君を励ます集い」が行われました。当日は1,500人の方にお集りいただき、おかげさまで盛況のうちに終了することができました。

渡辺喜美代表をはじめ、浅尾慶一郎・山内康一両代議士、また、12月1日付でみんなの党所属となった川田龍平参院議員にもご参加いただいたほか、東京都副知事の猪瀬直樹氏にもご来場賜りました。

たくさんのご声援、ご支持を賜りまことにありがとうございました。どうぞ今後とも柿沢未途、そしてみんなの党を宜しくお願いいたします。



川田龍平参院議員 みんなの党へ入党!



12月1日、みんなの党の渡辺喜美代表と江田憲司幹事長による記者会見が国会内で行われ、これまで無所属だった川田龍平参院議員の入党を発表しました。

33歳の川田参院議員は薬害エイズ被害者として、0歳の時に投与された血友病の薬により薬害エイズに感染。17歳で薬害エイズ裁判の原告団となり、19歳で実名を公表、その意思表示は大きな反響を呼び、当時困難と言われていた国や企業を相手取った裁判で「和解」を勝ち取るなど、日本の薬害事件に大きな一石を投じました。

そして、日本の医療制度、環境問題に取り組むため、31歳で東京選挙区から参議院議員選挙に立候補、初当選を果たしています。無所属だった川田参院議員には民主党からの入党要請もあったものの、「民主党は議員立法の禁止や議員連盟の加入制限など、独裁的な政治が行われていて自由に発言ができない。労働組合に支えてもらっている民主党では『脱官僚』が出来ないことも明らかである。その点みんなの党はしがらみのない政党であり『脱官僚』をしっかりとやるであろうと確信している」と、入党の決意を語りました。渡辺代表は「川田氏のように『医療改革』という具体的な政策目標をもって政治家になられ、覚悟を持った人の決断のある行動は我々にとっても貴重なものである。」と語り、川田参院議員の入党を歓迎しました。



8月30日の衆議院総選挙で改選議席を上回り、5人で船出をしたみんなの党は、力強い6人目の漕ぎ手を得て、2010年夏の参議院選挙、そしてさらなる政界再編に向けて改革を進めていきます。どうぞこれからのみんなの党の活動にご注目ください。



ツイッター議員急増中! いつでもどこでも “つぶやいて”います

自党内でも議員を集めて講座をひらき、その使用を推奨している「Twitter(ツイッター)」。その手軽さから“ミニブログ”とも言われていますが、文字制限のないブログと違って、一度に入力できる文字は140文字。この制限された字数の中では伝える手腕も問われるところです。

柿沢未途も同党の浅尾慶一郎議員とともに、携帯電話とパソコンを使って、日々の活動をTwitterにて報告する「Twitter議員」としてそのネットワークを広げています。

時事問題について、朝の駅頭報告など、その時感じたことをリアルタイムでつぶやいておりますので、ぜひご覧ください!



柿沢未途 twitter <http://twitter.com/310kakizawa>